

NPO法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(Fax)

(振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

2018. 4. 14 発行

ニュース

～那須は良いとこ 何度もおいで 金もつくるよ 宝も！～

第14回全日本語りの祭り in 那須高原・那須実行委員長 齋藤留美子

今年の那須高原は数年ぶりの大雪で、最高気温も零下の日が何日も続く厳しい冬でした。

そんな真っ白な雪の森の中では、うさぎやリスの姿や足跡を見ることがあります。雉や狐が道を横切ったり、えさを求めて森の中を徘徊する猿の軍団。やっかい者の熊や鹿等、四季折々野生動物の遭遇もあり、春の新緑、夏の星空、秋の紅葉、冬の雪原、一年中身も心も温めてくれる温泉三昧の醍醐味を味わえる所が「自然豊かな那須高原」です。遅くまでえさを求めていて帰れなくなった猿が、家のベランダで、横一列に並んで雨宿りをする後ろ姿は、「想像してください」何とも滑稽で、思わずほっこりと心をなごませてくれます。昔話はこうした現実から生まれてくるんだなと思わされる出来事でした。

猿がえさを求めて森に出没すると、明日は天気が悪くなる。かまきりの卵が木の上の方に産み付けられていると、その冬は雪が多い。まさしく昨年見つけたかまきりの卵は、いつもより上の枝にありました。そして今年の冬は豪雪、厳しい寒さ。まるで気象予報士のような本能に驚きます。

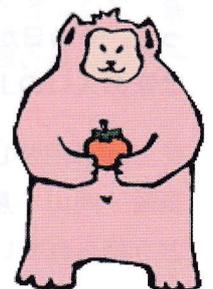
語り部としての話材は豊富、興味が尽きません。自然の中、雨、風、寒さ、飢えに耐えて生きるその姿には、今、人間が必要としている「生きる力」、忍耐力や勇気、知恵、そして共存する意味を教えてくれているような気さえしてくるのです。学びはどこにでもあるんだな、老いても素直な気持ちになります。

「桃太郎」が鬼退治に行く時のお供に、犬、猿、雉。登場する動物や鳥は、平成の世の今、まさに目の前の生活の中において、昔話の遠い昔と変わらずに身近な存在の那須高原。何かを退治に行く時は、ちよいと頼んでみようか、役に立つかもしれないぞ。ん？それにしても「日本一のきび団子の作り方」は…？

さて、那須町には、「九尾の狐」(殺生石)の伝説があります。何千年何万年と生き長らえ、最高の悪とされている九本の尻尾を持つ「白面金毛九尾の狐」。妖しげな美しい女に化け、紀元前の中国で王様の心を惑わし国を滅ぼし、ついに吉備真備の乗った遣唐使船で734年頃日本の博多に上陸…中国編、天竺編に続き、いよいよ日本編の「九尾の狐」の話、はじまりはじまり！

宿泊先ホテルサンバレー近くには「殺生石」、栃木県最古の温泉「鹿の湯物語」、那須余一も参拝した「温泉(ゆぜん)神社」「めくらへび石」「教伝地藏」「喰初寺」等の話があり、その他「北向き地藏」「大丸の雪女」の昔話。伝説は現地に出向き、空気や背景を知るべしという信念で訪問した、殺生石の飛来先・備前の国の化生寺や会津伊佐須美神社、宮崎県椎葉村での「那須大八郎と鶴富姫」の悲恋物語のエピソード等、歴史好きこの指止まれ！

聞ける、語れる、交流出来ると、語り部の心をくすぐる話が満載の語りの祭りです。皆さん、「全日本語りの祭り in 那須高原」にお出で下さい、那須でお逢いしましょう。



*タイトルは、「那須湯もみ唄」の歌詞、12番にある
「病なおして わが家に帰り 金も作るよ 宝もよ」より